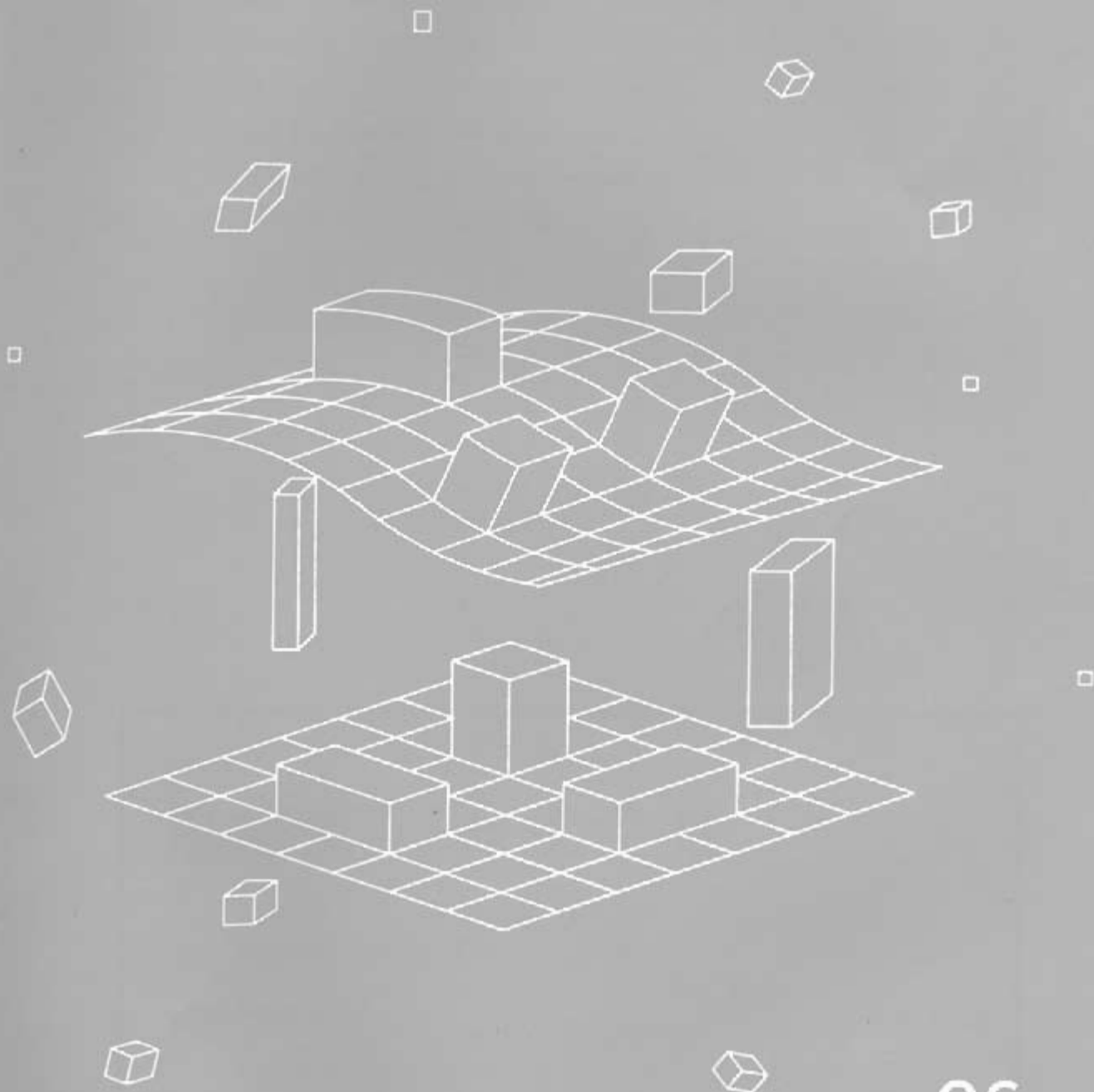


ITSUMIKAI



NO. 26
平成11年版

目 次

あいさつ	2
大学紹介（オープンキャンパス）	4
第25回記念五三会建築設計競技結果報告	8
OB訪問	22
紀行文	24
広工大・五三会親睦ゴルフ会報告	28
1998年度卒業予定者一覧	30
広島工業大学建築・環境系教職員名簿	32
五三会活動報告	34
五三会収支決算報告	35
五三會会則	36
スポンサー一覧	40
編集後記	40

ごあいさつ

会長あいさつ

五三會会長
山 野 正 晴 (S54年卒)

昨今の非常に厳しい社会状況が続くなか会員の皆様も大変な時期を各々の分野で鼓舞ご奮闘のこととご察し致します。

私は平成10年度より会長を勤めさせていただくことになりました。五三會のさらなる発展へ向けて微力ながらがんばっていこうと思っております。

五三會も早いもので平成11年には30周年を迎えることとなります。母校におきましても「建築学科」から「環境デザイン学科」また「土木工学科建築工学コース」への発展的な改組転換のなか平成11年度から環境学部のほうでは新しい学科の創設も予定されているそうです。大学も21世紀を担う人材の育成に懸念に努力されていることと思います。我々五三會といたしましても連携とネットワークにおいて母校の発展に貢献していこうと思っております。

五三會の会員数につきましても平成10年度も100名弱の新入会員の入会をいただき、ますます発展、成長しているかと思えます。会自体の年令的な由もできてきましたし、会員相互の交誼を目的とした事業も広がりのあるものとなってきております。「五三會競技設計」・「会報誌の発行」を主軸にしながら新入会員の歓迎会や忘年会またはゴルフコンペ等また学生との関係においての学生大賞等いろいろ

な形での交誼をますます発展させております。

若い会員のエネルギーと諸先輩また大学の先生方々の御指導がどうかみあい展開するかが今後の五三會の課題かとも思っております。そういった機会を事有ることに増やしていきたいと思えます。五三會といたしましても参加することでお互いが成長し世代を超えた交流の中、広がりのある関係として各々の自己実現へむけての契機になりえるような会に、発展的成長をしていきたいと思えます。会をとおしての個人的成長は会の発展、しいては大学の発展に寄与するものと信じております。社会や大学もいろんな意味での枠組みが変わる中、五三會は建築をキーワードにはしていますが枠組みを超えた関係としてのもっとも身近にある集まりかと思えます。関係のおだやかな繋ぎ方は時代の要請かとも思えます。参加して輪を繋いでいきましょう。諸先輩の方々、後輩のみなさんどんと声を掛け合い参加してください。

前述しましたように五三會は30周年を迎え年令的な由も広がっておりますが、幹事会は年令的に非常に若返っております。世代を超えた生き生きとした交流を継続、実現していくためにも諸先輩方の御支援、御指導・御協力のほどよろしく願いいたします。

大学の紹介

～オープンキャンパスの取材より～

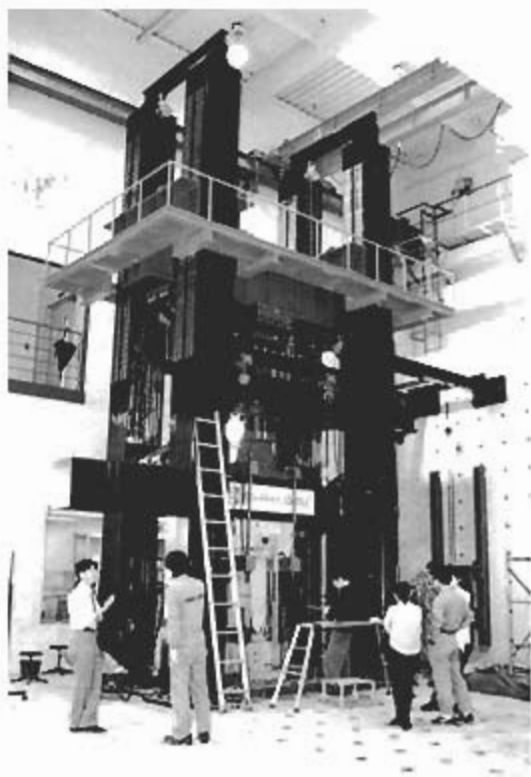
平成10年10月24日、さわやかな秋空の下、大学行事であるオープンキャンパスが行われました。これは広島工業大学を志望する学生・保護者に対して工大キャンパスを実際に知ってもらうために行われるもので、図書館・電算センター・実験室等の主要設備の見学会や各学科ごとのミニ講義、個別相談会等あり、年2回実施されているようです。

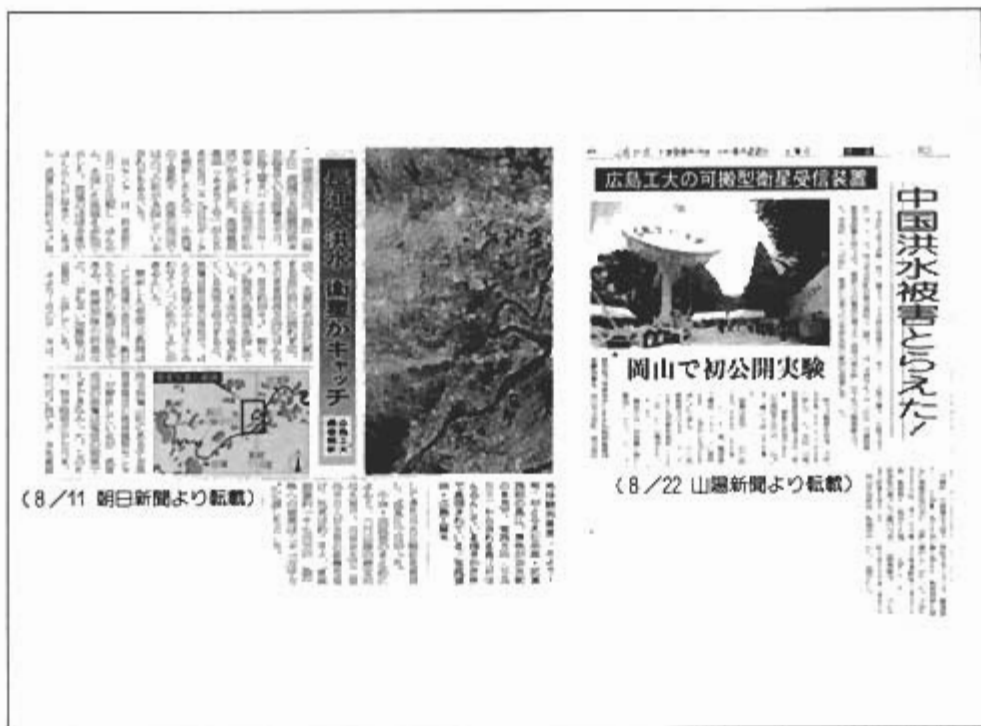
オープンキャンパス当日、環境学部環境デザイン学科（平成5年に建築学科より改組）では卒業設計の作品展示やCADによる設計の紹介があり、工学部建設工学科では、二軸荷重装置による鉄筋コンクリート柱の実験が行われていました。また平成11年4月より開設される環境学部環境情報学科では、コンピューターを利用した人工衛星データの解析処理の見学がありました。環境情報学科は環境問題の解決に貢献することを目的に、情報科学と情報処理技術を基礎として、自然環境と

人工環境の調和を図る手法を学んでいく予定となっているようです。また大学院には、環境デザイン学科を基礎とした環境学研究科地域環境科学専攻（修士課程）が平成9年4月に設置されており、「環境」という緊急テーマに対応できる人材育成が一貫して行われています。

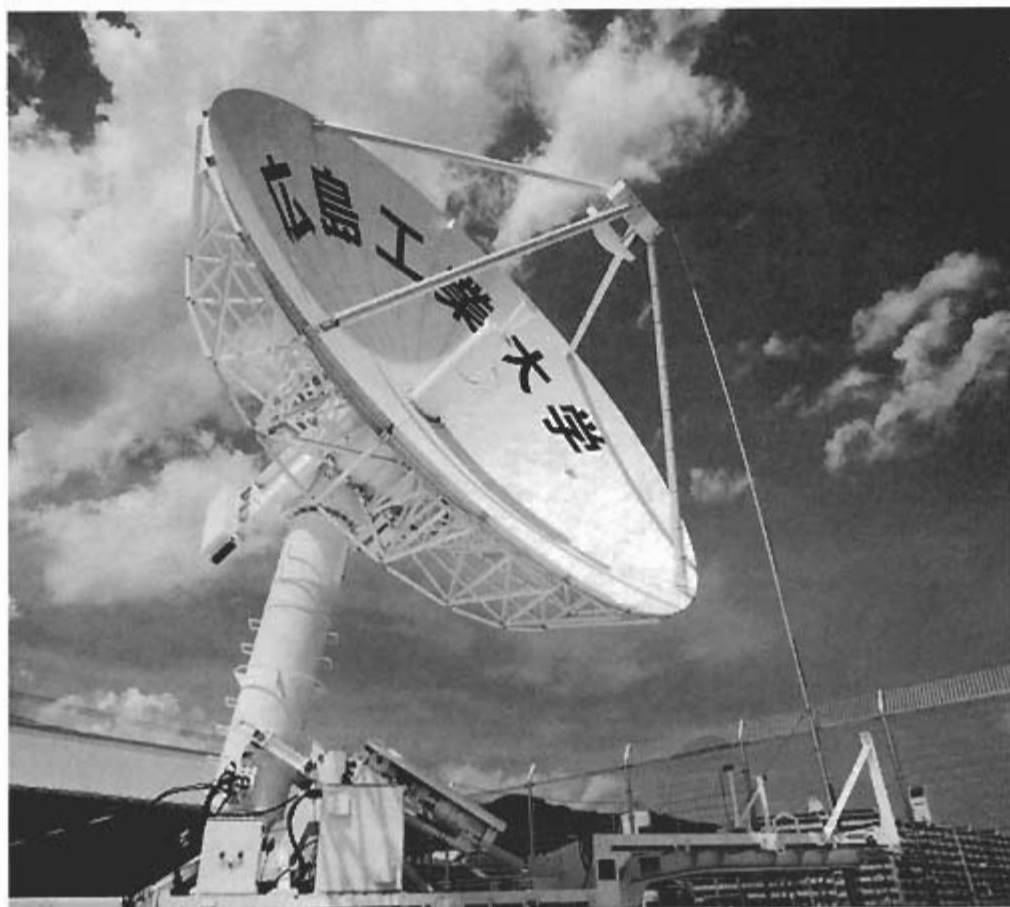
大学施設の面では年々向上しており、耐震防災研究棟（22号館）、地球観測研究棟（21号館）、そして広島市西区の広島工業高校には地球観測ステーションと次々と建設されました。これは文部省が創設した私立大学ハイテクリサーチセンター整備事業の一貫であり、研究テーマとして「人工衛星高次利用技術に基づく環境・防災等社会基盤情報システム開発」をテーマにして取り組んでいます。

五三会会員の皆さんも、工大キャンパスを久しぶりに訪れてみては如何でしょうか。





広島工大166号抜粋版より



キャンパス マップ

広島工業大学



- 大学院 工学研究科
 - (博士後期課程)
 - 知的機能科学専攻
 - (博士前期課程)
 - 電子工学専攻
 - 機械システム工学専攻
 - 土木工学専攻
- 大学院 環境学研究科
 - (修士課程)
 - 地域環境科学専攻
- 工学部
 - 電子工学科
 - 電気工学科
 - 機械工学科 (総合機械コース
電子機械コース)
 - 建設工学科 (総合建設コース
建築工学コース)
 - 経営工学科
- 環境学部
 - 環境デザイン学科
 - 環境情報学科 (許可申請中)
(平成11年4月開設予定)

- 工学部 (学科事務室所在棟)**
- 電子工学科……………新1号館
 - 電気工学科……………新10号館
 - 機械工学科……………6・新8号館
 - 建設工学科……………新2号館
 - 経営工学科……………新4号館
- 環境学部 (学科事務室所在棟)**
- 環境デザイン学科……………20・新3号館

- 事務部門**
- 総務部・財務部……………本館1階
 - 学務部……………本館2階
(入試事務室、学生担当、教務担当)
 - 保健室……………1号館1階
 - 就職部……………本館4階
 - 広報室……………本館6階
 - 企画室……………新1号館14階
 - 事務開発室……………20号館1階

- 教育研究支援施設**
- 電子計算機センター…情報センター1階
 - 工作センター……………8号館
 - 総合研究所……………11号館
 - ハイテクリサーチセンター
 - 地球観測解析研究棟…21号館
 - 耐震防災研究棟……………22号館
 - 超高速塑性加工研究センター…23号館

- その他の施設**
- 多目的ホール……………学生会館2階
 - 学生ラウンジ……………学生会館4階
 - 西4号館2階、10号館1階
 - 売店……………新1号館2階
 - 西4号館1階
 - 食堂……………学生会館1階
 - 4号館1階、9号館1階

平成15年度新入生から「土木工学科」は「建設工学科」に名称変更いたしました。

25th MEMORIAL ITUMIKAI COMPETITION

第25回記念五三会建築設計競技結果報告

「国際平和文化都市広島への街づくりを考える」をメインテーマ20回の記念コンペから続けてまいりましたが、早くも本年度25回の記念コンペが終了致しました事をご報告致します。

審査員

- 入野忠芳 (いりの ただよし/画家)
- 遠藤吉生 (えんどう よしたか/建築家)

審査員プロフィール

- 入野忠芳 (いりの ただよし/画家)
- ・1939年 広島市に生まれる
 - ・1962年 武蔵野美術大学油絵科卒業
 - ・1983年～広島工業大学非常勤講師
 - ・第11回現代日本美術展・毎日現代美術大賞受賞
 - ・元広島市文化懇話会委員・広島市現代美術館設立構想立案
 - ・広島市公共建築物デザイン審査会委員
 - ・広島物置所外壁画制作
 - ・作品は広島市現代美術館・広島県立美術館・東広島市立美術館などに収蔵
 - ・広島市芸術学会作家部門・芸術展企画実行委員長
- 遠藤吉生 (えんどう よしたか/建築家)
- ・1954年 広島県生まれ
 - ・1977年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
 - ・1989年 遠藤建築スタジオ設立
 - ・1993年～近畿大学工学部非常勤講師
 - ・主な作品/1990 鶴見町の家/1992 ギャラリーてんぐスクエア/1993 板橋さざなみ幼稚園アネックス/1994 葛飾 水元の家/1995 泉ヶ丘の家
 - ・受賞/1994-1996 INTER. INTRA SPACE DESIGN SELECTION デザイン賞連続入賞/1997 呉市美しいまちづくり賞/1998 くまもとアートポリス鹿北町アートプロジェクトコンペ優秀賞

課題 広島への祝祭—21世紀に向けて—

■課題主旨

広島は、半世紀前の戦争で原爆の被害を被るという世界でも稀な経験をした都市です。原爆が初めて投下された都市という一点のみにおいて、負の遺産として世界中に知られています。しかし現実の状態を見ると、国際平和都市広島と私たちの日常とはかなりの距離があるとも思いますし、また二つを強引に結びつけることもリアリティーに欠けると思います。広島は国際平和都市としての「祈りの場」という重要な役割を持つとともに、100万人の人々が幸福に暮らせる都市でなくてはなりません。負の遺産を認めつつも、今生きていることを喜び、実感できる都市の日常であってほしいと思います。

タイトルの「祝祭」は、フェスティバルやカーニバル、村祭りなどの収穫祭や宗教的意味を持つ祭典と言った直接的な物ではなく、そこから派生する「人をわくわくさせる」「何かに感謝する」と言った様々な意味合いを持ちます。そういった「祝祭」を広島の日常に持ち込むことによって、新鮮なシーンが生まれるのではないのでしょうか。都市における「祝祭」は一つとは限りません、一人一人別々の出来事や思いがそれぞれ星の数ほどあるでしょう。素朴で小さな幸福や微笑ましい場面、イベントの中での出来事。喧騒・雑踏・人々の会話の中に生きていることを感じた時、何かを「祝祭」する瞬間は様々に現れるでしょう。

この祝祭する場面と平和都市としての広島が共存できれば、戦後のヒロシマをこえた「生命の大切さ」に思いを馳せる事ができるのではないのでしょうか。人との出会いを素直に喜べる時間、生命に対して感動できる場所、その様なシーンの連続で都市ができれば、とても魅力的だと思います。

負の遺産の中から世界に発信されるメッセージとは別に、私達が日常の中で生命や他の何かの大切さに気づき、感謝できる空間、私達の限られた時間と日常に豊さを与え、21世紀に向けて国際平和都市としての幅と奥行きを広げてくれる「祝祭空間」-フェスティバ感覚あふれる空間-をデザインしてもらいたいです。場所や規模そして何を導入するかは応募者の自由とします、ただし空間に対するハードのみならずソフトの対応も含めて記述して下さい。

以上の内容で平成10年9月に課題を発表致しました。

この記念コンペに際して、建築の枠組みを超えた広がりのある魅力あふれたコンペとなることを期待して、画家の入野忠芳先生と建築家の遠藤吉生先生をお迎えしました。例年とは少し趣を変えようと県内の美術系大学・専門学校にも呼びかけ、11月26日を締切とした所、広島工業大学環境学部環境デザイン学科18作品、広島工業大学工学部土木工学科建築工学コース3作品、福山大学2作品、福山大学大学院2作品、近畿大学1作品、近畿大学大学院1作品、広島大学大学院3作品、広島女学院大学1作品、呉工業高等専門学校3作品、広島YMC A国際ビジネス専門学校1作品の計35作品におよぶ力作が寄せられました。

12月6日に広島工業大学広島校舎において、多くの応募者や興味のある学生の方々が見守る中、公開審査会を行いました。当日は希望者による簡単なプレゼンテーションを含めて、およそ3時間にも及ぶ熱のこもった審査会となりました。先生方と応募者による対話はもとより、美術側の入野先生と建築側の遠藤先生による意見の相違や同意できる部分等の興味深いお話を聞かせていただきました。審査結果は別記の通りとなりました。

入野先生・遠藤先生には、この事業にご理解頂き、ご多忙の中課題の作成、審査・講評と貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

画家である入野先生には、建築コンペのプレゼンテーションの読み取り方にご苦労されたようでした。特にCG作品や利用した作品が多量に増えたため一見してどの作品も画一的に感じられるようでした。表現の自由を得ようとして、コンピューターやデジタル機器の限界で縛られていると言う事なのでしょうか？

以上にて本年度の建築設計競技の結果報告を終わりますが、今後ともこの設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

入選発表表（敬称略）

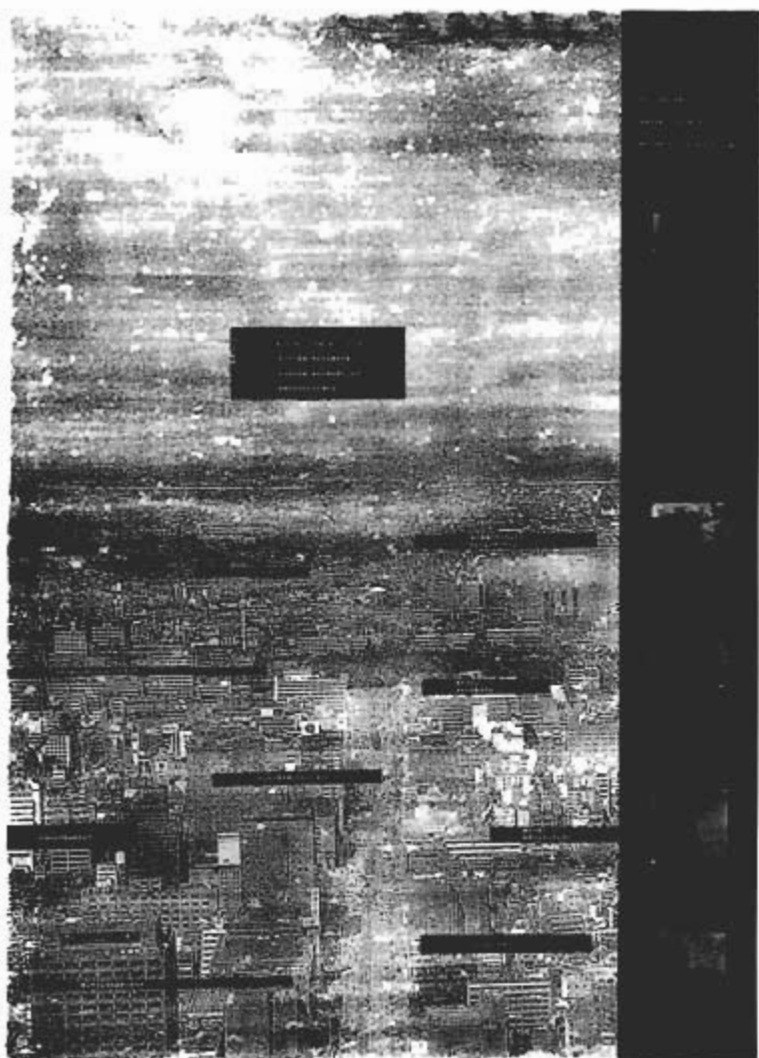
一等	仁田 宏明 浅倉 勉 小田 毅 野田 智也 馬場 浩人（広島工業大学）
二等	宇坪 伸二（広島工業大学）
三等	山田 美加（福山大学大学院）
三等	高橋 将章（広島工業大学）
佳作	土井 久顕 村中 裕貴 土井 良介（近畿大学大学院）
佳作	株本 玲子 鈴木 千賀子（広島女学院大学）
佳作	三好 裕榮（広島大学大学院）
佳作	キノシタヒロシ（広島工業大学）
佳作	石川 誠（広島工業大学）
佳作	白石 隆治（広島工業大学）
佳作	金城 順 佐川 昌謙（広島工業大学）

以上、11作品19名。

五三会建築設計競技実行委員会



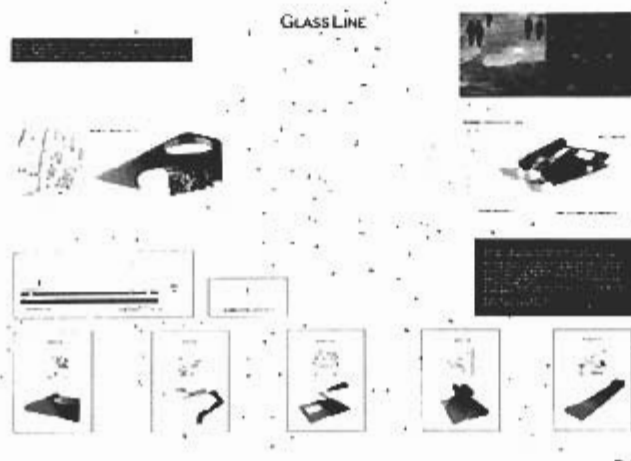
一等 仁田 宏明 小田 毅 馬場浩人
浅倉 勉 野田 智也 (広島工業大学)



二等 宇坪 伸二 (広島工業大学)



三等
山田 美加
(福山大学大学院)

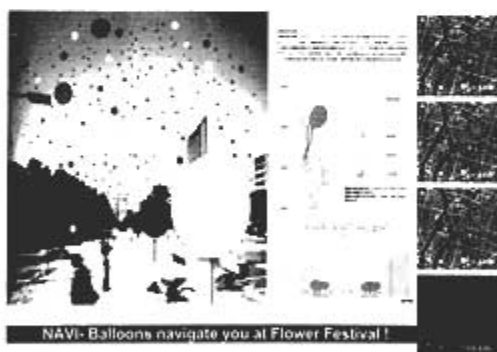


三等 高橋 将章
(広島工業大学)



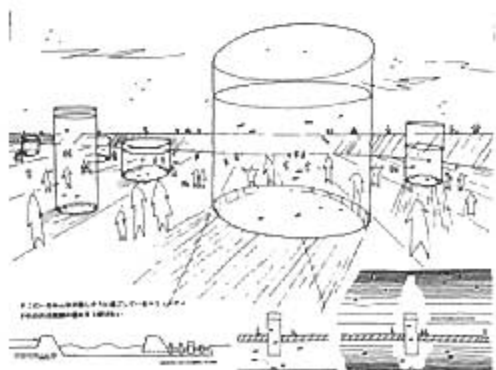
佳作 土井 久顕
村中 裕貴
土井 良介
(近畿大学大学院)

佳作 株本 玲子
鈴木 千賀子
(近畿大学大学院)



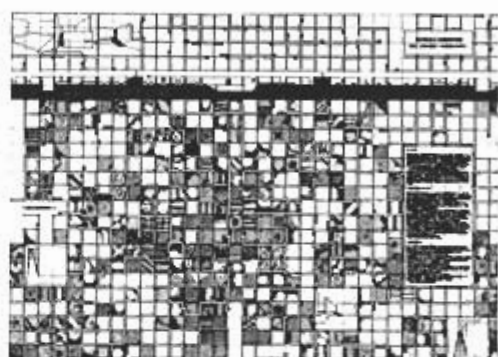
佳作 三好 裕栄
(広島大学大学院)

佳作 キノシタ ヒロシ
(広島工業大学)





佳作 石川 誠
(広島工業大学)



佳作 白石 隆治
(広島工業大学)



佳作 金城 順
佐川 昌謙
(広島工業大学)

入野忠芳

画家の私に審査依頼というのが意外でないわけではなかったが、このコンペを建築という閉ざしたイメージから少しでも広げていこうとする主催者の意欲がよく理解できたし、なによりも街づくりというテーマに興味がないわけではないから、おこがましくもお受けした。

課題の「広島祝祭」はさりげないけれども重厚なテーマだと思う。八百万の神々というように、日本人はもともと自然との共存を核にした血の熱いアジア文化の一員のはずだったのに、今では日本ほど冷めた気分のところはないように思う。土や水や風やに関わって、わくわくするとか血が騒ぐというような気分を味あう機会は少ない。自然や人にたいする畏敬の念がないところには昂揚した気分もないし祝祭も成り立ちがたい。

日常が祝祭ともいべきインドにおいて、聖なるガンジス川に沐浴する人の敬虔な姿に私らは心うたれるが、そのインドには大理石で作った巨大なインド大地の立体模型を御神体とした寺院がある。彼らにとってガンジス



ばかりか大地そのものが聖なるものであった。地球にやさしいなどというような思い上がった言葉が軽々に使われてしまう今日この頃の人間本位の傲慢な考え方の対極である。

私が広島拘留所の壁画を描くにあたって江戸時代の広島の風俗を調べた時、「川ざらえ」という大きな祭りがあったことを知った。舟の運行に支障をきたさないために洪水などで堆積した川底の土砂をかき出す作業をいうが、この重労働を支えるための応援団が各町内か



ら連日数千人もくりだして町じゅうを練り歩いたという賑々しい祭りである。民衆のエネルギーを見せつけるもので、広島町のそのような活性があったことは嬉しい。痩せ細った生命では祝祭はかなわない。町にも人にもっとエネルギーをと願う。

さて作品は、水をテーマにしたものが3割をこえていたのが目立った。水というものが本源的な物質であるうえに、広島は山と川と海を理想的に配置した箱庭のような地形であ



ってみれば当然の取り組みであったかもしれない。その中で一等賞の「豊饒の海」は群を抜いていた。平和大通りの大地から顔を覗かせている400年前の海岸線を示す岩礁は市民によく知られているが、ここに白い砂浜を敷いて海を導入し、海と共生していた頃の記憶を呼び覚ます空間にしたいというものである。

箱庭の海のようにであろうとも海は海。想像力によって太古の海にも大海にもつながる装置であろう。家に巨樹や巨岩があるのがいいと昔からいうのは、現在を越えた大きな生命につながる装置として言っているのであって、たとえ巨樹や巨岩のかけらであっても同様であろう。

3等賞の「GLASS LINE」も、町なかの空き地に装置したガラスの層に川の水を引き込んで、干満で変化するガラスの水際を出現させるというもので、川が生活と離れすぎている今日の切実がある。同様のアイデアのものが他にもあったが、この作品の絵作りの美しさに説得力があった。なお、3等賞にかぎっては2点のうちこちらが私推薦の賞、もう一方の山田案が遠藤賞ということで、そちら



については遠藤さんがふれるはずです。

2等賞の「明かりが消えた町」は、「明かりの消えた世界、建物は沈黙し、空間自体が語り始める、歴史の気配が充実し、皮フ感覚でそれを了解する」とある。プラスエネルギーの建設ではなくてマイナスエネルギーの建設。これは創ることを放棄しているのではなくて、明かりとは闇とは生命とは何か、創るとは何かという問いを創造している。現代のすべての芸術が抱えている問題に連なっている。

佳作については優劣つけがたく、また賞にもれた作品の中にも当然ながら外すに忍びないものも多々あって胃が痛む思いをした。事の性質からして賞の数を押さえざるを得ないためのことであって、今後の益々の創作活動を期待したい。

今回は25回記念の特別企画ということで、応募者対象を建築学生に限ることなく窓口を広げて応募資格不問とされたが、これは今後も検討されていいことかもしれない。広く市民の参加を得て、このコンペ自体が広島の祝祭にまで成長していくことを期待します。



私たちの広島はある時は世界のヒロシマであり、また人口112万人が日々の日常を暮らしている都市でもあります。あの日から50数年が過ぎ、世代の交代も進む今、改めてここ数年のメインテーマである「国際平和文化都市広島街づくり」のもとに祝祭の場を提案することが求められました。今回は応募者の資格枠もはずされ、審査員も画家の入野先生と私の2名とで、美術界と建築界双方の視点による審査を行うこととなりました。

さらに出題の方向性として多様性、多義性の中に解答を求められたこともあり、様々な解釈による応募作品が多数寄せられました。

審査に当たって、私個人はコンセプト・計画・プレゼンテーションという評価軸に加え、理想としての夢がいかにか描けているかをもう一つの評価基準としました。

一等の仁田+他4名案は、都市の中心部に海を祝祭の対象とする場を作り出そうとするもので、テーマに対して正面から取り組んだ力作でした。敷地が広島市中心部でありながらかつては海岸線であり、当時の岩礁と灯台を今に残す場所であるという事実がストーリーに現実性を持たせています。また海のすぐ近くで暮らしているにも関わらず、日常はその存在を忘れていた都市生活者に海の匂いをもたらし、海をイメージさせるというアイデアが新鮮でした。プレゼンテーションからは細部まで検討の行き届いた計画であることが伺え好感が持てます。現実的な正攻法で努力が積み重ねられていることを評価しました。一方で表現されている海や建築の形態は古典的なもので、その為に豊饒の海を捧げる祭りのイメージも懐古的なものを想像させるきらいがあります。これからの私たちにふさわしい新たなデザインの方向性が示されていたら、もっと力強い提案になっていたと思います。

二等の宇坪案は8月6日の午後8時15分にすべての照明を消して暗闇を発生させるという行為をデザインの対象とした案でした。朝の黙禱の夜バージョンかとも思われるのですが、どうもそればかりではないようです。間



のもたらす間接的な力が、たとえば親子のコミュニケーションを促したり、ひとり瞑想を試してみたりと、様々なきっかけを生むものとしてイメージされています。物を作らなくても出来事は作れる、原広司のいう「モノ」を作るのではなく「コト」を作るのだという宣言が若い世代によって再解釈されたものと感じられました。柔らかく考え、柔らかな解答を示すことが詩的な表現と共に効果を生んでいます。この提案は決して変化球を狙ったものではなく、課題に素直に取り組んだ結果で



あると受け止めています。ただ、闇を現出させたことによって起きる出来事をもう少し具体的にメッセージするべきでしょう。控えめな表現が、読み手の側の頭の中にある勝手なイメージをふくらませるといった効果を生むのではありますが、自らの提案を具体的に示すことをためらってはいけません。デザイン提案はポジティブな有用性をいかに示し得るかにある事を再確認したいものです。

三等案2点のうち私が推したのは山田案です。川の護岸の手すりをデザインしたのですが、祝祭の場を表出させるに当たり、その空間そのものをデザインするのではなく、日常的には脇役である手すりが装置化されており、むしろ「しつらえ」として機能することで護岸を祝祭の場へと転換させています。こういった主題そのものをデザインの対象とするのではなく、その周辺をデザインすることにより、相対的に主題を浮かび上がらせる手法がよりリアリティのある提案に思えました。しかし、広島川の護岸をすべてこの手法で覆ってしまえば、すべての場所が均質化してしまい、提案の持つ本来の意味が著しく失われてしまうのではないのでしょうか。高橋案はガラスと水により都市の空気をファンタジーの場へと転換する、夢あふれるものです。またプレゼンテーションにも美しい透明感が表現されています。ただ私にはそれによって発生する「コト」の意味がもうひとつ掴めませんでした。

佳作の7点は総合力において入選には及ばなかったものの、それぞれの視点による魅力があったものが残りました。魅力の部分に限定すれば入選作を上回るものも多かったです。土井+他2名案は身体が体験する空間と時間をテーマとしたもの、株本案の大勢で昼寝をするという行為を祭りとする案、三好案の風船にフラワーフェスティバルのナビゲーション機能を持たす案、キノシタ案の海につながる水槽がある公園、石川案の地面に近い視線を獲得する公園、白石案の社会性を回復させる個人の庭、金城案の潮位によって形態の変化する橋です。特に石川案の身の回りの生活と環境の日常性の中に祝祭の本質を見いだそうとする試みは、今後の公共の場を考えていくうえで重要なヒントを示唆してくれて

います。

祝祭の場というテーマは、若い人たちにとっては取り組みやすいものではなかったでしょう。また自分に引き寄せて考えようとするに相当に手ごわく、解答の糸口の見つけにくいやっかいな問いかけであったと思われます。しかしながら寄せられた提案をみると想像以上に柔らかく受け止め、弾力的に撥ね返す力のあることに感心しました。一方で深い洞察に支えられた骨太い作品が見あたらないことは多少気がかりな点です。社会を語るといった大げさな身振りを避けたという意識は解るのですが、避け続けた結果として小さな幸せを見つけるのは得意だけれど、大きな視野で物事を見つめる事が出来なくなっているのではと危惧します。またプレゼンテーションの技術はコンピューター利用の技術の一般化により相当高いレベルになってきています。



さらにそれでは差別化が図れないというので、手書きで勝負するといった競争も出てきました。様々な表現力を身につけるのは大変喜ばしいことだとは思いますが、そうであるが故に今後はますますその表現に載せる内容の意味そのもの、アイデアのオリジナリティーそのものが争点として浮かび上がってくることでしょう。こういったコンペティションに参加して、アイデアと表現を競い合うことは物事を考え、それを伝達する力を養ううえで大きな意義があると思います。人間と自然、そして社会に対するまなざしを深め、建築的な発想を様々な場所で発揮してゆかれることを期待しています。応募してくださった皆さんの今後のご健闘を祈ります。

元気に頑張ってます!

三井ホーム㈱ 古橋 俊和 (H4 年卒)

私が住宅メーカーに就職してまる7年が経ちます。入社当初は工事監督としての業務を6年間してきました。

住宅の工事監督の仕事とはいいますと、まず設計施工の管理をメインとし、安全、お金の管理、工事の工程をつかみ、お客様と付き合うのが仕事です。時には、現場でヘルメットをかぶり職人に指導したりもします。責任の重い仕事ですが、棟上、竣工時には、お客様や職人さん達と酒を飲んだりと楽しい一面も大いにある仕事です。しかし、近年の建設業界不況と言われる中、私の会社も同様に厳しい状況にあり、現在は私も現場監督ではなく営業をしている次第であります。俗に言う「住宅セールスマン」です。

当初、工事部署から、営業にうつる話がきた時には正直言って、「来る時が来た」といった感じで、これといって驚きは、ありませんでしたが、昔から、国語が苦手の理系の私にどれだけお客様に営業として話ができるかという不安はありました。また、自分がセールスマンになることにかなりの抵抗がありました。(それは未だにあります…。)

ここで、住宅の営業がどういった事をしているかを簡単にお話してみたいと思います。簡単に言うと、お客様に家を売るのが仕事になります。通常はモデルハウスの一室でお客様を待つのが一日の仕事になります。当然、平日は人の出入りはありませんから、車であ



ちこちと走り回ったり、団地内に投げ込みをしたり、時には、古い家に飛び込んだり、またある時は、漫画喫茶に飛び込んだりする毎日です。要は、確率の問題ですから、いかにいろいろな事をし、家を建てたい人を見つける、もしくは、建てたい気持ちにさせるかですから、とにかく数を当てる必要がある訳です。

そういった中では、やはりモデルハウスに来る人というのは家に少しでも興味がある訳で、建替、もしくは改築を考えている人に会える機会になるのです。逆に言うと、一室でモデルハウスの玄関モニターを見ながら構えているわけです。営業マンがどういう会話をしながら、そのモニターを見ているかは、だ

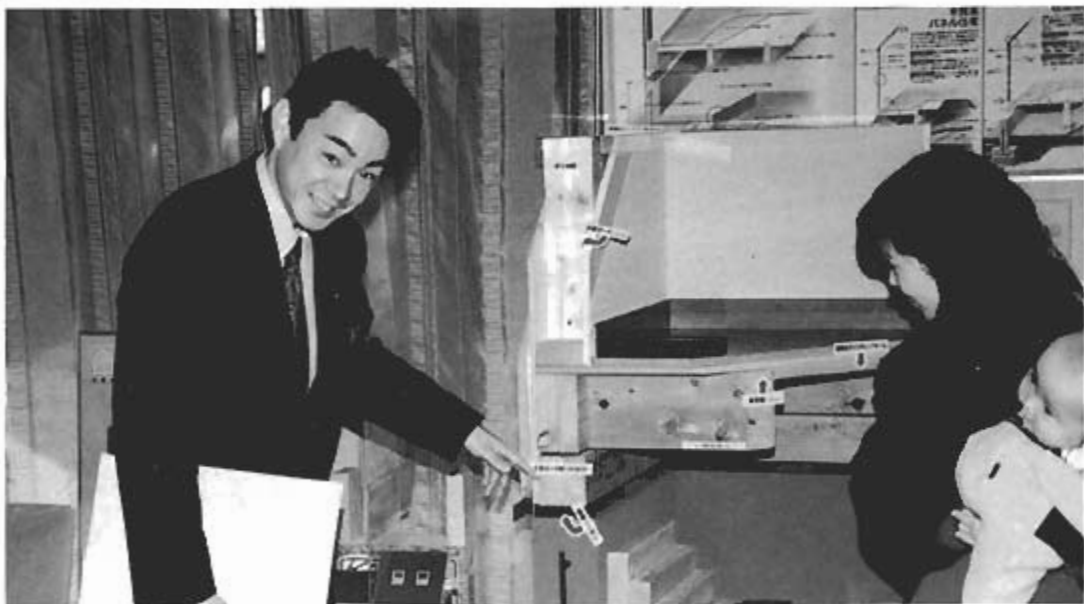
れにも聞かせられませんね。怖いでしょう？

話が横道にそれてしまいましたがそういうモデルハウスでお客様を接客するためにはモデルの部材、間取り、コンセプトは当然のこと、私の会社の話、相続などの税金、公庫などの融資の話、法規制といった建築のアドバイス、政治、スポーツなどの世間話などもできなくてはなりません。そのための練習の発表の場がモデルハウスの接客になるわけです。ですから、なにげなくモデルに入り込んだ方には申し訳ないのですが、そういったハウスで私どもは待っているのがウインドウショッピング感覚でという感じにはいかない訳です。

という訳で、だらだらとモデルハウスの話

ばかりになってしまいましたが、モデルハウスにいる営業マンとしては、とにかく感想等いろいろ話をしてくれる人なら大歓迎です。
(特に苦情をいってくださるといいですね。)

最後に、これから夢をもって就職される方、そうでない方、いろいろいると思います。特に大きな企業に就職された方、やりたい事、こだわった夢持っていて、おそらく自分の思いどおりにならないことが多いでしょう。でもその時幻滅しないで頂きたい。なぜなら、現在の私の仕事は、大学で学んだ事、私が本当にしたかった事とは全くかけ離れてしまいましたが、なんだかんだと言っても私自身、今の仕事をかなり楽しんでいますから。



古きを訪ねて新しきを知る

広島再発見 ～尾道の旅～

会報誌の構成のために編集員が集まった時のこと、今回はいつもと違った記事を書きようという声に、一瞬の沈黙のあと編集員皆の口からでた言葉は、“旅行紀”掲載でした。(旅行紀=取材旅行という図式が皆の頭に成立していたのはいうまでもない。)

かくして、旅行紀掲載の運びとなり、編集員の“取材旅行”計画は他の記事のことはそっこのけで進められていったのです。

行くとなれば目的地であるが、露天風呂だの、陶芸だの、勝手なことを言った揚げ句、時間と、財布の中味の乏しさに一同我に戻ってテーマをまず考えることにした。

- 広島らしさがある。
- 歴史のあるまち。
- 最近注目されているまち。

以上3点を満たすべく“取材地”選定にあたったのです。

石畳のまち尾道へ 一古寺めぐり

取材地は、“尾道”。尾道といえば、『文学のこみち』『風情ある坂道のまち』『大林映画の尾道三部作』等々、いろいろな呼ばれ方をされていますが、編集員の中には、“真実の尾道”を知る者はなく、期待と不安混じりの取材旅行となりました。



交通手段は、なるべく旅費を安くあげることになり、JRでの旅となりました。日常自動車を交通手段にしている我々にとってたまに乗る列車の音、体に感じる揺れは、なぜか懐かしく、心地の好いものに感じられました。しかし尾道駅について待ち受けていたものは、初秋の割に真夏のような暑さでした。

駅に着くと我々は、汗ふき用のタオルとガイドブック片手に、古寺めぐりコースを進むことにしました。

道は、細く坂道が多いのと日頃の運動不足解消のため徒歩による移動

となりました。

まず我々が立ち寄ったのは、持光寺。ここには国宝の仏像があるそうです。しかし、それよりも私達が興味を持ったのは“にぎり仏”でした。これは訪れた人自らが願いごとをしながら土を片手に握り、それに竹ぐして目鼻を描いたものを窯で焼いてくれ後日郵送してもらえするというものです。編集員Mも、良縁に恵まれ



るよう(?)土をにぎる手に力が込もっていました。

他にも、重要文化財の三重塔が建つ「天寧寺」 2mもの巨大なわらぞうりが懸けられている「西国寺」 国宝の本堂をはじめ、国重要文化財を多数持つ「浄土寺」、そして尾道のシンボルにもなっている「千光寺」。

結局今回の旅行では、大小さまざまな10箇所余りのお寺を廻りました。



2mのわらじー西国寺の参門にてー

建物的には、推古天皇に聖徳太子が創建したといわれる浄土寺(616年)や、大同元年(806年)に創建された千光寺、貞治6年(1367年)足利義詮が建立した「天寧寺」等々、それぞれの寺はそれぞれの時代背景を持ち、その時代を反映した建築様式を持っているので、いくつお寺を廻っても、その度毎に新鮮な気持ちで拝観できたことをつけ加えておきます。

気がつけばあなたも詩人!? ー文学のこみちー

千光寺公園内には1kmにわたって「文学のこみち」と名付けられた遊歩道が続いています。林芙美子、志賀直哉の他、正岡子規、松尾芭蕉など25の碑があり。これらの碑には、それぞれの詩が刻まれています。(散策していると、いつのまにか、俳人気どりで一句詠んでいるのであった。)



文学記念室前、「暗夜行路」の記念碑前にてー

千光寺に至るこみちの途中に志賀直哉の旧居があります。大正元年に、父との不和から東京を離れ尾道に逃れた志賀直哉が1年間住んだ三軒長屋を当時のまま保存したものです。直哉は大正元年から2年にかけてここで暮らし、「暗夜行路」の草稿を執筆し、その合間にこの部屋から瀬戸内の島々を眺め、心を休めていたそうです。

またこの建物には、林芙美子の書斎(東京の自宅)が再現され、当時の様子をうかがい知ることができます。

以上の志賀直哉の旧居は、「尾道市文学記念室」として公開されています。

スクリーンの中の風景が目の前に —スクリーン刻まれた名作の舞台—

尾道といえば大林宣彦監督の尾道三部作を思い出す人も少なくないでしょう。(転校生)《時をかける少女》《さびしんぼう》この三つの作品が三部作といわれるものです。

尾道で生まれ育った大林監督にとって、尾道は、その町自体が専用のオープンセットでありスタジオなのです。その映画のシーンを思い浮かべながら、ノスタルジックな小路をさまよいて歩くのは、何ともいえず、不思議な体験でした。

また、ロケの名所には地元の方々が道案内がてら、来る人を待ち受けロケ現場の様子を親切に教えて下さる風景があちこちで見られました。人と人とのつながりが希薄になっている昨今、ほのほのとした心温まるシーンでした。大林監督は、趣のある風景はもちろんのこと、こうした人間味あふれる人たちを含めた“尾道”全てを愛しているのだらうと思いました。

かけあしで、尾道を紹介してきましたが、今回訪れた“尾道”は我々の期待以上の“何か”を持っているまちのように思えました。筆者自身、軽自動車も通れないような非日常的な空間をさまよって歩いた後、いつのまにか車の行き交う国道2号線に出ってしまった瞬間のあまりのギャップに、大袈裟でも何でもなく、“タイムスリップ”という言葉が自然に頭をよぎるほどでした。

日頃、雑踏の中でせわしく働いている皆さんも、形のない“何か”を探しに、出かけてみてはいかがでしょうか。

帰りの電車の中、棒になった足をよそに、頭の中は、すでに次回の取材旅行の行き先を考えているのでした。



今回の旅	場所	時間	
	○広島駅集合	7:30	
	○尾道駅着	9:24	
	①特光寺	9:40	
			← にぎり仏製作
	②光明寺	10:15	
	③海福寺	10:25	
	④宝土寺	10:35	
	⑤文学記念室	10:50	
			← さびしんぼう人形と記念写真
	⑥天寧寺	11:25	
			← 資料おき忘れてUターン
	★こもん (ワッフルで有名な店)	11:55	
			← チェンバロ優雅な音色と おいしいワッフルで一同元気回復
	⑦千光寺	12:45	
			← 尾道水道を見下ろすロープウェイ
	○タイル小路	13:35	
			← いろんなタイルが張り詰められた こみち。「時をかける少女」のロケ 地にも。
	⑧御抽天満宮	13:45	
			← 「転校生」で二人が抱き合っ て転がり落ち2人の体が入れ替わっ た場所
	⑨大山寺	13:55	
	⑩西国寺	14:00	
			← 2mの大わらじ
	⑪西郷寺	14:26	
	⑫浄土寺	14:38	
			← ハトの大群に襲われる
	⑬海龍寺	14:50	
	★朱華園	15:15	
			← 尾道ラーメンここにあり
	○尾道駅	6:00ごろ	
	○広島駅	19:30	

今回のおこづかい内訳	
JR	1,450+1,450
にぎり仏	1,500
ワッフル+ドリンク	790
ロープウェイ(片道)	270
ラーメン	450
ビール	350
総計	6,260円

延べ歩行距離約 6 km

広工大・五三会親睦ゴルフ会報告

00広島市都市整備公社

高尾 康 明

建築学科の先生方と、五三会との交流の場として生まれた親睦ゴルフ会も、迎えて第5回が、平成10年10月21日穏やかな天候のもと、河内町の安芸カントリークラブで開催されました。あいにく今回はスケジュールの都合で先生方は参加できませんでしたが、5組-20名で行われました。

本会は建築学科創立30周年、建築学科同窓会五三会創立25周年記念事業活動の中で生まれ、平成6年11月4日に第1回が開催され、以来毎年1回開催されております。

当日は先輩、後輩、常連、また初参加者も二名ありましたが、各組とも殆ど同期の人と一緒にのためか、平日にも拘らずリラックスした様子でした。今まで私は毎回参加することが出来たおかげで、学生時代には、出会ったこともなかった多くの方々とも、親しく話し合えるような仲になれたことが、自分にとってはかけがえのない財産だと思っています。

また、同期の人と話をしてみると、学生時代の頃の思い出が鮮明に蘇ってきます。

ブレイは大松代表幹事のナイスショットの始球式でアウトコースから始まりました。皆さんが見ている前で、1組1番の私の第1打は9番ホールに飛んで行きました。

前日、今回の幹事である私は、1期生の先輩である馬場富蔵さんから、突然の腰痛で参加は難しい状況であるとの連絡を受けておりました。参加は殆ど無理と思っていたところ、コースに現れた先輩は医師からも明日ゴルフをすることはもっての外だと言われていたに

もかわらず、早朝には痛みが和らいだようでもあるし、楽しみにしていたので、回れるところまででもやりたいと思って参加したということでした。

このことを聞き私は嬉しい反面、一抹の不安を感じたのであります。当コースはアップダウンが少なく、乗用カートの使用であり、時々隣のホールからは、1期生である吉川先輩（当コースのメンバー）の西条なまりのよく響く声や、笑い声を聞きながら、のんびりとした和気あいあいのプレーの為か、馬場先輩は終始すばらしいゴルフが最後まで続いたのであります。

私は、馬場先輩の他、中学からの友人である坪原君、同期で第3回の優勝者である吉田さんとの組みで回りながら、二番目の楽しみであるビールを味わい、スコアの方もいまひとつであり、各賞にも縁がなかったが、仕事のこともすっかり忘れて18ホールを楽しんだのであります。

後の組では、私と同期で2回目の参加となる弟の馬場富次郎さんも参加されており、兄弟での参加出来る素晴らしさを羨ましく感じたものでした。今後もこの親睦ゴルフ会がいつまでも続き、親子で参加する日が来れば良いかと願っています。

競技はダブルベリア方式で行い、優勝者は4回目の参加となる渡辺 茂（山陽技術コンサルタント勤務）さんがネット69.8で初優勝されました。ベストグロス賞は過去2回優勝の実力者の佐川規行（広島市役所）さんが、

広工大・五三会親睦ゴルフ会報告

83で3回目の獲得となりました。ドラコン賞は何れも第1期生である大松さんと吉川澄生さんが元気なところを示されました。

ニアピン賞は初参加の田村さんが2ホール、大松さん、中村さん、パーティ賞は吉田さん、渡辺さん、吉川さん、佐川さんの4名が、獲得されました。

競技後は、成績発表と賞品授与、ゴルフの寸評、会計報告に引き続き、恒例となって個人的で楽しい各自の近況報告を行い、五三会

からの報告が中島前会長よりありました。

最後に大松幹事長より、次回の開催日程は、大学の先生方や五三会会員のより多くの方が参加がしやすいように調整するとし、再会を約束して散会となりました。

なお、本年の第6回親睦ゴルフ会は優勝者の渡辺 茂（山陽技術コンサルタント勤務）さんの幹事で開催しますので、多数の皆さんの参加をお願いします。

第5回 広工大・五三会親睦会成績表

安芸カントリークラブ			平成10年10月21日(休)			
順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
1	渡辺 茂	42	47	89	19.2	69.8
2	大松 恒一	54	44	98	26.4	71.6
3	田村 清博	41	44	85	13.2	71.8
4	松本 隆司	43	45	88	15.6	72.4
5	中島 伸夫	47	50	97	24.0	73.0
6	馬場 富蔵	45	43	88	14.4	73.6
7	吉田 正輝	47	48	95	20.4	74.6
8	中村 裕	53	43	96	20.4	75.6
9	高尾 康明	47	42	89	13.2	※75.8
10	佐川 規行	42	41	83	7.2	※75.8
11	月橋 寿良	49	49	98	21.6	76.4
12	松岡 良昌	47	42	89	10.8	78.2
13	小山 達志	44	56	100	21.6	78.4
14	吉川 澄生	48	46	94	14.4	79.6
15	兵頭 徹也	57	50	107	26.4	80.6
16	坪原 隆行	56	56	112	31.2	80.8
17	吉川 英明	53	56	109	25.2	83.8
18	村上 憲弘	56	60	116	26.4	89.6
19	木下 和夫	63	70	133	36.0	97.0
20	馬場 富次郎	86	72	158	36.0	122.0

※ 同ネットの順位は年齢による

事業所

文啓人司広孝治香也一一幸治英史作収彰晃治志周宏介治彦幸和樹美剛利男吾宏二子吉み介可惜郎樹充之郎譽子典郎司郎人和廣文
 專康華將真和幸治卓圭真直榮敏清新 仲健 典佑智克貴智俊益 米治真孝憲慎健さ大淳修健英 裕圭 良辰拓孝京拓久 俊
 宮田崎川田田村本田山井谷高光 家内藤岡 田本連村山 本原賀松田森原 城家田本井岡原本木田下根山垣廣家野村谷井下本
 磨一上江小奥敷加岸藏小酒塩下末菅善竹竹谷辻津寺徳中中流橋羽平平福藤藤籠古古舛柳松松宮森八保山山横吉米領卯木椋酒森平

事業所

樹一彦子一裕和子彦平水仁子子士郎治和宏哉俊壯一郎有秀美彦子松子雅子さ聡和次帆織沙一輔司一之和平平恵明
 美匡雅智康一豊朋一州明力陽智史大司正正康和 光修真^太 嘉里行^下佐千真^理竜裕^きな 広範志香知裕大勝健英正洋恒理英
 元川戸口中 井尾田嶋尾下谷司野木山迫川尾木岡田田上井田川加重嶋永束上松脇 口川口下木田部間場岡越村岡田
 城瀬瀬田田力壺寺豊島中中中中中中中中中中中中水西庭橋花濱林火平平藤星前松松万三家宮室森柳山山山吉渡赤井杉鳥野濱宮

(土木工学科) (建築)

氏 名 優樹郎博和
 井達田内井 征辰信敬
 浅安荒池石

[広島工業大学
建築・環境系教職員名簿]

〔土木工学科 建築工学コース〕

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
中尾好昭	教 授		
佐藤立美	"		
高松隆夫	"		
浅野照雄	助教授		
岩井 哲	"		
福田由美子	講 師		
大林 真	技 術 職		

〔環境学部 環境デザイン学科〕

門田博知	教 授		
田頭良子	"		
水田一征	"		
篠原道正	"		
森保洋之	"		
光易 恒	"		
東元 定雄	"		
喜久川政吉	"		
天野 隆實	"		
神田 隆至	"		
菅 雄三	"		
菅 原辰幸	"		
小林芳正	"		
新田昌弘	"		
高木 登	"		
村本 徹	"		
横田 壽	"		
竹内 章司	"		
中山 勝矢	"		
大内 和夫	"		
佐藤 洋	助教授		
西川 加禰	"		
中村 隆夫	"		
野添 久視	"		
廣川 協一	"		
清田 誠良	"		
西垣 安比古	"		
手越 義昭	"		
三好 孝治	講 師		
三村 泰	"		
熊谷 啓	"		
平田 圭子	"		

平成11年度総会のお知らせ

日 時	平成11年4月24日(土) 1. 五三会総会……午後1時30分～午後4時 2. 工大同窓会……午後4時30分 3. 懇親会……午後6時
場 所	「五三会」総会 広島市中区白島町5-7 鶴学園広島校舎402号室 TEL082-249-1251(代) 工大総会・懇親会 広島市中区大手町1丁目5-3 鯉城会館 (広島県民文化センター) TEL082-245-2311(代)

発表！ 五三会 学生大賞 入賞者

- ・環境デザイン学科 白石隆治
建築におけるメモリアルの可能性
- ・土木工学科 建築工学コース 吉垣良子
For tiny artist
～美術を通じた精神教育

五 三 会 活 動 報 告

幹事長 三 島 久 範 (S60年卒)

日本中が変革期（ビッグバーン）の中にあ
り、未だ長期的な視野が開けて来ない今日こ
のころですが、「五三会」の会員の皆様におか
れましてはこの期をうまく活かされ、益々ご
活躍のことと思います。

今年度「五三会」役員が大きく変わる中で、
戸惑いながら就任した私（幹事長）は、前任
者の方々やその他の会員の方々の暖かいご支
援により、なんとか無事、年間行事を進める
ことができました。

特に、五三会設計競技は25回を迎えるとい
うことで記念行事として計画を進めることと
なり、審査員を引き受けてくださった入野先
生や遠藤先生、企画・運営に携わった会員、
幹事の方々には、多大なるご尽力をいただ
いた次第です。この場をお借りして厚くお礼申
上げます。

また、長年のコミュニケーション不足によ
り会員の方々の転居先が分からなくなり、郵
送した会報誌が返送されるようになってきた
ため、今年度は会員の方々の住所録の整理を
することとなりました。

住所録を整理して下さっている幹事の方
には、大変なご苦勞をお掛けしていますが、
今のところ、廻って整理していくための現状
の住所録がパソコンに入力できた状態となっ
ています。

今後、この住所録をより確かなものにし
ていくためには、転居された方々が事務所に
ハガキでご連絡くださることが大切となります
ので、どうかよろしくお願いします。

このように新体制による「五三会」の活動
も多くの人々のボランティア活動に支えられ
て、今のところ順調に進んでいます。近年、
一つだけ運営のネックになりつつあることが
あります。

それは、昨年度から今年度にかけて「五三
会」会報誌の広告掲載の希望が徐々に減っ
てきており、活動資金が縮小されてきている
ということです。

諸先輩方がこれまで育てて来られた同窓会
活動が変革期に縮小するということは悲しい
ことですし、役員並びに幹事も、今後とも「五

三会」活動を絶やすことなく展開して行きた
いと願っております。

このような不安定な時期ゆえに、会員の皆
様の更なるご支援が必要となっております。
どうか今後ともご協力の程よろしく願いま
す。

平成10年度活動報告

1. 総会の開催
2. 会報誌「五三会」第26号の発行
3. 第25回「五三会」建築設計競技の実施
4. 「五三会」会員の増強
5. 「五三会」ゴルフコンペの開催
6. 会員の住所録の整理

平成10年度役員

- | | |
|---------|----------------|
| (会 長) | 山野 正晴 (昭和54年卒) |
| (副 会 長) | 森田 洋生 (昭和47年卒) |
| | 落合 木堂 (昭和56年卒) |
| (会 計) | 木下 和夫 (昭和63年卒) |
| | 田中 義登 (昭和63年卒) |
| (会計監査) | 金川 豊 (昭和47年卒) |
| | 神垣 聡志 (昭和61年卒) |
| (書 記) | 松本 文子 (平成5年卒) |
| | 小瀧 宏治 (平成6年卒) |
| | 朽木 紀子 (平成9年卒) |
| (幹 事 長) | 三島 久範 (昭和60年卒) |
| (副幹事長) | 平田 欽也 (昭和60年卒) |
| (顧 問) | 三上 明夫 (昭和44年卒) |
| | 中島 伸夫 (昭和49年卒) |

〔五三会事務局〕

〒731-5193

広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学環境学部環境デザイン学科

菅原研究室内 TEL 082-921-3121

五三会収支決算報告

平成10年度収支決算報告

(平成11年3月1日現在)

◆収入の部	(単位 円)	
繰越金	5,252,837	
新会員会費	943,350	
広告料	600,000	
利息収入	758	

合 計 6,796,945

◆支出の部	(単位 円)	
会議費	43,780	
バイト費	95,304	
印刷費	0	
金融機関手数料	140	
雑費	0	
会報誌印刷費	550,000	
会報誌郵送費	175,200	
設計競技費	501,240	
新入会員歓迎費	31,300	
郵送費	36,140	
予備費	15,848	
繰越金	5,347,993	

合 計 6,796,945

平成11年度収支予算(案)

◆収入の部	(単位 円)	
繰越金	5,347,993	
新会員会費	900,000	
広告料	880,000	

合 計 7,127,993

◆支出の部	(単位 円)	
会議費	70,000	
バイト費	70,000	
印刷費	40,000	
金融機関手数料	1,000	
雑費	10,000	
会報誌印刷費	550,000	
会報誌郵送費	220,000	
設計競技費	320,000	
新入会員歓迎費	100,000	
予備費	100,000	
繰越金	5,616,993	

合 計 7,127,993

建築学科記念事業基金収支決算報告

平成10年度収支決算報告

(平成11年3月1日現在)

◆収入の部	(単位 円)	
繰越金	1,702,791	
利息収入	1,303	

合 計 1,704,094

◆支出の部	(単位 円)	
雑費	0	
在学生交流費	15,999	
在学生助成金	50,000	
繰越金	1,638,095	

合 計 1,704,094

平成11年度収支予算(案)

◆収入の部	(単位 円)	
繰越金	1,638,095	

合 計 1,638,095

◆支出の部	(単位 円)	
雑費	10,000	
在学生交流費	100,000	
在学生助成金	150,000	
繰越金	1,378,095	

合 計 1,638,095

広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学工学部建築学科・同上木工学科建築工学コース・環境学部環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行う。
- (1) 集会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
 - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
 - (5) 会員の功績に対する顕彰
 - (6) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生(大学院を含む)のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築・環境系卒業生
広島工業大学建築・環境系在学学生(大学院生を含む)
 - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
 - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
 - (2) 会長・副会長・幹事長・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
 - (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する

- 第 8 条 各役員はそれぞれ求の任務を持つ。
(1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
(2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
(3) 会 計 会計事務に当たる
(4) 会計監査 会計を監査する
(5) 幹 事 長 会務を主宰する
(7) 書 記 書記事務に当たる
- 第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

第四章 顧問

- 第 10 条 この会に顧問は若干名をおく。
(1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
(2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会 議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年1回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が召集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
(1) 会則の変更と改正 (2) 決算及び予算
(3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議
- 第 14 条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
(1) 総会に附議する原案 (2) この会の運営に関する諸事項
(3) 事業委員会の組織 (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第4条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会 計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
正会員は終身会費として、入会時に10,000円を納入しなければならない。
- 第 18 条 この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第七章 委 任 事 項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

本会則は、平成8年度から施行する。
旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

編集後記

会報誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

自分が思うとおりに物事が進まない時、途中で投げ出したくなったことはありませんか。

1つ問題が解決したと思ったら、また新たな問題がでてきて、それでも前へ進もうとするのはどんな時でしょう。

また、ここまでいいと自分で止まってしまうのは、どんな時でしょう。

編集作業をしながら、そして仕事においても何度もそんな場面に自分が立たされます。

そして、責任はこれにどんな風に関わってくるのでしょうか。

どちらにしても、自分自身が納得できるように行動したいものです。

五三会では、会員の皆様からの情報をお待ちしています。

「五三会」第26号 編集委員
寺尾 慈子(H4) 沖野 友康(H9)
高野 栄一(H4) 三好 征一(H9)
原尻 正(H4) 長田桂代子(H9)

〔連絡先〕

五三会事務局

広島市佐伯区三宅二丁目1番1号
広島工業大学環境学部環境デザイン科
菅原研究室内
(〒731-5143) ☎082-921-3121(代)

広島工業大学建築学科同窓会会誌
「五三会」第26号

編集責任者 寺尾 慈子

発行責任者 山野 正晴

企画・製作 ハローデンイン

発行 平成11年3月